

雪嶺集

〈宮坂静生鑑〉

鴨

小林貴子



渦状銀河青葉若葉のその奥に
梅雨冷の手の甲に摺る塗香かな
刀身に七星紋や夏の露
螺鈿琵琶放つ光は夏椿
来世は鴨となり田に働かむ
北を指し川沿ひを行く養蜂家
麦笛をぴいぴい鳴らし上毛へ
上つ毛や雹が濁流なしてをり
円城寺龍天にまだ尾が見えて
梅雨穂草さよなら土屋忠史さん